

p28 「一問一答」

1. 体内に入ってきたアレルゲンが認識されると、肥満細胞からヒスタミンが遊離され、鼻水やくしゃみが誘発される。
2. ヒスタミンの働きが活発になると、眠気を生じる。
3. 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンと受容体の結合を助けることで、ヒスタミンの働きを抑える。
4. 授乳中の女性がクロルフェニラミンマレイン酸塩を含む成分を服用すると、乳児に昏睡を生じるおそれがある。
5. 抗ヒスタミン成分は抗コリン作用も示すため、排尿困難や緑内障の症状を悪化させるおそれがある。
6. ジフェニドール塩酸塩は、抗ヒスタミン成分と似た作用を示し、主に鼻炎用内服薬に用いられる。
7. 抗ヒスタミン作用を有する薬剤の副作用として白内障にも注意が必要である。
8. 医薬品によっては、瞳の拡大（散瞳）による異常なまぶしさや目のかすみ等の副作用が現れることがある。
9. 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示すため、胃酸分泌は抑制される。
10. 抗ヒスタミン成分を含有する医薬品の服用後は、自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事させてはならない。

【解答】

1. ○
2. × ヒスタミンは覚醒の維持・調節に関与する生体内情報伝達物質で、その働きが抑えられると眠気を生じる。
3. × ヒスタミンと受容体の結合を邪魔することで、ヒスタミンの働きを抑える。
4. × 乳児に昏睡を生じさせるおそれがあるのは、ジフェンヒドラミンを含む成分。
5. ○
6. × ジフェニドール塩酸塩は、抗ヒスタミン成分と似た作用を示し、主に鎮痛薬に用いられる（抗めまい成分）。
7. × 白内障ではなく、緑内障がある人で嚴重な注意が必要である。
8. ○
9. ○
10. ○